

協働パイロット事業 (H28) 企画提案書

団体名：きやりこみゆ<sup>2</sup>

1 事業の名称

高校生×社会人

「高校生記者が創る静岡オトナ図鑑」～私たちが選ぶ静岡の先輩・ロールモデルブックの作成について

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください)

【提案の背景・課題】

① 人口減少問題

静岡市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では平成22年の71.6万人(国勢調査)を基準とすると平成32年には5%減の67.9万人、平成52年には22%減の55.9万人となることが推定される。また平成27年の人口減少数は3568人、人口増減率も1.5%減と、政令市では北九州市(福岡県)と並んでワースト1位の減少幅、減少数では全国市町村別でワースト10であった。特に、15～24歳の若年層の転出が顕著であり、若年層を中心に転出が起きている。特に、大学進学時の県外進学率は文部科学省学校基本調査のデータでは73.4%(県別入学者数より)と高校卒業時に静岡を離れ若年層の転出超過に繋がっていることが課題として浮き彫りになっており、本市において今年度からスタートした新幹線通学への助成制度や東京有楽町に設置した静岡市移住促進センターのより一層の活用など人口減少に歯止めをかける様々な施策に期待が高まっている状況である。

② 自己有用感の低下

高校生の生活と意識に関する調査報告書(独立行政法人国立青少年教育振興機構が2015年8月)では「自分はダメな人間だと思う」72.5%  
「自分に人並みの能力はない」44.3%  
といったデータが示されており、自己有用感・自尊感情が低いことが特徴づけられる。

③ 身近なロールモデルの必要性

きやりこみゆ<sup>2</sup>が2012年から静岡市内の高校で実施しているワークショップの終了後アンケートでは、「今まで社会人や大人に話を聞く機会があまりなかったが、今日の話聞いて具体的に想像することができた」「大学生など年が近い人の体験の話をきくことができ、貴重な体験ができてよかったです」など、年齢の近い身近なロールモデルとの接点を持つことが将来に対する前向きな目標設定や学習意欲の向上に繋がっていると推測できる。

一方、通常の高校生活で接する大人は、「親」「先生」「塾の先生」といった限られた大人だけであり、地域の大人と関わる経験が圧倒的に不足していることも事実である。

## 【静岡市との協働する意義】

### ① 人口減少対策

静岡市総合戦略では、2025年の総人口70万人維持が掲げられている。静岡市人口ビジョンによる分析でも明らかとなった「若者」の流出への対応が喫緊の課題であり、「未来市民」という新たな視点のもと総合的に人口減少対策に取り組んでいる状況である。

重点事業では「わかものまち」推進に取り組んでいくこととなっており、大学生や中高生などの若者による自主的な地域活動等への支援や、まちづくりへ若者の参画を充実するための方策を検討していくこととなっている。

### ② 自己有用感の向上

第3次静岡市総合計画では地域や世界で力を発揮できる人材を育成することが掲げられ、「自己有用感を持ち、社会で力を発揮できる若者の育成」を重点施策としており、また、第2次静岡市子ども・若者育成プランにおいても、「自己有用感を持った子ども・若者の割合」が成果指標として設定されている。

### ③ ロールモデルとの出会いを通じて、静岡市への愛着や誇りを持つよう促す取り組み

静岡市総合戦略の基本目標として、地域への愛着の醸成を図るため「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童・生徒の割合」が設定されている。

## 【想定される効果】

以上を踏まえ、本事業の実施により想定される効果は以下の3点と考えられる

#### ① 将来的な若年層の静岡への定着促進

地域社会や世界で活躍している等身大の身近な静岡の先輩と出会うことで、高校生の将来の選択の幅を広げ、静岡で活躍するイメージを持つことで将来的な若年層の静岡への定着促進に繋がる。

#### ② 自己有用感をもった若者・子どもの育成

高校生自身がカタログ作成に携わるプロセスを通じて、第2次静岡市子ども・若者育成プランの施策の柱の一つである自己有用感を持った若者・子どもの育成に繋がる。

#### ③ 静岡の魅力再発見（地方創生×キャリア教育）

地域に愛着を持ち地域に貢献する人材、また地域や社会をよくするために何をすべきか考えることのできる生徒の育成に繋がる。

## 【事業の成果目標】

下記指標を目標とする。

#### ① 第2次静岡市子ども・若者育成プラン施策1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- ・自分が誰かの役に立っていると思う子ども・若者の割合
- ・自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合

※高校生については現状値を把握していないため、事前・事後のアンケートを実施し、効果測定を実施する。

#### ② 静岡市総合戦略基本目標

- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童・生徒の割合

団体名：きやりこみゆ<sup>2</sup>

### 3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

#### 【団体の担う役割】

実施高校との事前打ち合わせ、企画会議、事前学習、事後学習、冊子作成等計画した事業を実施します。

#### 【静岡市の役割】

青少年育成課との協働を想定しています。

具体的には、

- ① 高校での事前・事後学習の協働（キャリアデザイン授業の実施）
  - ② 冊子作成の協働
- を想定しています。

団体名：きやりこみゆ<sup>2</sup>

### 4 事業計画・実施スケジュール

#### 【実施計画】

青少年育成課・実施高校と協議の上、下記スケジュールで実施していきます。

- ① 事前打ち合わせ・企画会議の実施
- ② 事前・事後学習の実施（キャリアデザイン講座を含む）
- ③ 編集会議の実施
- ④ 冊子作成
- ⑤ 完成報告会実施

#### 【実施スケジュール】

- 6月
- ① 高校での事前打合せ・企画会議実施  
【企画会議での議題】※フューチャーセンター形式で実施。
    - ・インタビュー対象社会人のアイデア出し
    - ・インタビュー内容の検討等
  - ② 事務局でインタビュー対象社会人の開拓・インタビュー対象のマッチング  
インタビュー項目を元にデザインフォーマット作成
- 7月
- 事務局で先輩インタビューに向けた事前学習の実施  
静岡市と連携したキャリアデザイン講座の実施
- ・先輩インタビューのマナー・ルール
  - ・インタビューの心構え、取材のノウハウ

・記事編集の留意事項

8月 高校生が社会人インタビューを実施(夏休み期間中に実施)  
インタビュー記事作成

9月 高校での編集会議実施  
【編集会議での議題】※フューチャーセンター形式で実施。  
・ロールモデルブックタイトル  
・ロールモデルブックのカテゴリライズ等

10月 事務局が編集作業実施

12月 入稿・印刷

1月 冊子納品

2月 完成報告会実施

※実施時期及び内容は青少年育成課・実施高校と再度協議の上、最終決定します。

【効果測定】

高校生を対象に事前・事後アンケートを実施し、本事業の実施効果の測定を実施します。

第2次静岡市子ども・若者育成プラン施策1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」の成果指標でもある「自分が誰かの役に立っていると思う子ども・若者の割合」「自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合」について効果測定を実施。※高校生については現状値を把握していないため、事前・事後のアンケートを実施し、効果測定を実施する。

また、静岡市総合戦略基本目標「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童・生徒の割合」についても同様に効果測定を実施。

団体名：きやりこみゆ<sup>2</sup>

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

(1) 実施体制

- ・ 主担当者：きやりこみゆ<sup>2</sup>代表井上美千子
- ・ 補佐担当（企画会議・編集会議ファシリテーション担当）：天野浩史  
増田貴光
- ・ 補佐担当（企画、運営補佐）：太田大介

(2) 主要スタッフ・井上美千子経歴

2012年静岡市人材養成塾地域デザインカレッジを受講し、メンバーと共にきやりこみゆ<sup>2</sup>を立ち上げ高校生のキャリア支援に取り組む。(資格：2級キャリア・コンサルティング技能士【国家資格】)

- ・ 静岡県人づくり推進員
- ・ 静岡県男女共同参画課チャレンジ相談員

- ・特定非営利活動法人静岡フューチャーセンター・サポート・ネットESUNE副代表理事
- ・NPO法人男女共同参画フォーラムしずおかスタッフとして2015年より静岡市生涯学習推進課主催地域デザインカレッジ事務局を担当

団体名：きやりこみゆ<sup>2</sup>

## 6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

### (1)専門性

きやりこみゆ<sup>2</sup>は任意団体ながら、2012年の発足以来、先生方との信頼関係を構築し、高校でのワークショップの実績を積み上げてきている。

また、キャリアコンサルタント・キャリア教育コーディネートの実績を生かし本事業に関わる事ができる。

### (2)独自性

冊子作成にあたり、作戦会議や編集会議をNPO法人静岡フューチャーセンター・サポート・ネットESUNEの協力のもとフューチャーセンター形式で実施することで、より一層高校生の主体性を引き出す活動を目指す。また、高校生との対話を重ねることでよりよい冊子となるようブラッシュアップを重ねていく。

### (3)先駆性

今回の提案の最大のポイントは「高校生自身」がインタビューしたい地域の先輩社会人を選び、高校生自身が高校生記者としてロールモデルブックの作成に関わるスキームを事業提案し、自己有用感の向上、主体性の醸成に繋げることを狙いとしている点にあると考える。

大人が作成した「ロールモデルブック」「静岡の企業紹介本」は他にも多数存在するが、与えられた物ではなく、高校生自身が取材・作成に関わるプロセスを通じ、高校生自身が静岡で活躍する身近なロールモデルと出会うことで「都会と地方の差を超えて「地域のために」尽くす大人がいることを知る」「ローカルでも活躍できるイメージを持つ」「静岡にも素敵な大人・働き方が多数存在することを知る」ことで中長期的視点若者の定着促進に繋がる事業であると考えている。

また、キャリア教育的視点では、生徒自らが当事者意識を持ち課題に臨む過程で経済産業省が定める社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の向上に繋がる活動であると想定される。

### (4)実績

2012年 静岡市生涯学習推進課主催人材養成塾地域デザインカレッジ受講生3人で活動をスタート  
静岡県立静岡中央高等学校でのヒアリング調査実施

静岡市人材養成塾地域デザインカレッジ「コーディネーター賞」受賞

2013年 静岡県立静岡中央高等学校で将来を考えるワークショップスタート

2014年 静岡市人材養成塾地域デザインカレッジ専門コース「コーディネーター賞」受賞

2015年 静岡市立高等学校・静岡県立駿河総合高等学校で将来を考えるワークショップ実施

2016年 しずおか共育フォーラム開催

(京都造形芸術大学教授本間正人氏の笑顔のコーチングセミナー実施)

(5) 2年間継続することの効果

広告協賛によるシリーズ化・他校展開・増版、WEB版の発行等継続的に高校生に機会を提供していくことを目指す。

また、ロールモデルブックとワークショップの連動を図り、ロールモデルブックに掲載されて大人の社会人講話や先輩のカタリベを高校で展開していく。

## 協働パイロット事業 (H28) 見積書

団体名: きやりこみゆ<sup>2</sup>

企画のタイトル: 高校生×社会人 「高校生記者が創る静岡オトナ図鑑」 ～私たちが選ぶ静岡の先輩・ロールモデルブックの作成について
---

項 目	金 額	説 明
【冊子作成費】		
冊子印刷	200,000	1000部
冊子デザイン費用	60,000	冊子表紙等デザイン代
【企画会議事前・事後学習】		
講師報酬	50,000	事前・事後学習@10,000×3 企画会議@10,000×1 編集会議@10,000×1
【活動経費】		
実費	30,000	交通費・事務用品費(ポストイット・模造紙・マーカー)・資料コピー代等
小 計 A	340,000	
消費税 B=A×0.08	27,200	
合 計 A+B	367,200	

◎実費弁償契約の希望の有無	有	無
---------------	---	---

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な使途
なし		